

具体的な研修内容

三小田 博 昭・石 川 久 美

12月9日から日までの日程で、生徒9名がBHSECとの研究交流に参加した。参加生徒は、SSHの生徒研究員制度のプロジェクトに所属している生徒の中から選考した。スライムモールドプロジェクトから1名、色素プロジェクトから3名、チャンドラセカールプロジェクトから2名、相対論・宇宙論プロジェクトから3名がそれぞれ参加した。

(1) BHSECでの活動

各プロジェクトが、日頃の研究成果をパワーポイントを用いて英語発表する準備を行い、BHSECの生物、物理の授業中に発表を行った。また、BHSEC共同研究プロジェクトとして、「味覚修飾」について発表した。また、BHSECの図書室にてポスター発表を行った。

パワーポイントを用いた発表では、すべての発表において質問が出た。すぐに質問に答えられる生徒もいたが、質問内容を理解できず、BHSECの先生に質問内容をわかりやすい英語に言い直してもらった場面もあった。ポスター発表では、聞き手とやり取りしながら発表することができた。

次の生徒の感想からも、サイエンスプレゼンテーションがよい経験になったことがわかる。

「英語でプレゼンするということは、本当によい経験だった。英語しか通じないフィールドで相手に、より簡単にかつ自分が伝えられる範囲の英語を駆使してプレゼンを行う能力を身につけられるようになったからだ。クラス発表の時は、あまりう

まくやりとりできなかったが、図書館でのポスター発表は、文法は崩壊していたと思うが、相手とやりとりしながら自分の言葉で伝えることができたのは、大きな一歩だと思う。」ホストファミリーの生徒と一緒にBHSECの授業にも参加した。すべての授業が20名以下で行われ、次の生徒の感想にあるように生徒が活発に質問することで進んでいく授業を体験することができた。

「授業では、挙手の多さに驚きました。先生が質問を投げかけた時はもちろん、授業の中でも疑問があったらすぐに手を挙げて解決するまできちんと聞いていました。(中略) 生徒どうしの議論もすごかったです。」



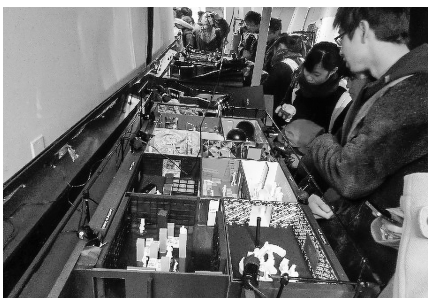
スライムモールドの発表



宇宙論・相対論の発表

(2) アメリカ自然史博物館・ニューヨーク市立大学での実験

自然史博物館の見学では、サイエンスライターの方にバックヤードも案内していただき、展示計画のために作ったミニチュアモデルも見ることができた。ニューヨーク市立大学では、免疫に関する研究の説明の後に解剖を行うことができ、免疫系にとって重要な器官を確認することができた。(文責 石川久美)



自然史博物館バックヤード



ニューヨーク市立大学での実験